

第1回 全員協議会会議録

平成30年2月23日(金)
委員会議室

○会議日程

- 1 開会宣告(15時06分)
- 2 協議事項
 - (1) 幌延町議会議員報酬検討特別委員会からの継続案件について
- 3 その他
- 4 閉会宣告(16時40分)

○出席議員(8名)

| | | | |
|-----|----|-----|----|
| 議長 | 8番 | 植村 | 敦 |
| 副議長 | 7番 | 高橋 | 秀之 |
| 議員 | 1番 | 富樫 | 直敏 |
| 議員 | 2番 | 西澤 | 裕之 |
| 議員 | 3番 | 斎賀 | 弘孝 |
| 議員 | 4番 | 無量谷 | 隆 |
| 議員 | 5番 | 鷲見 | 悟 |
| 議員 | 6番 | 吉原 | 哲男 |

○議会事務局出席者

| | | |
|------|----|----|
| 事務局長 | 早坂 | 敦 |
| 主事 | 満保 | 希来 |

植村議長

それでは、ただいまより第1回の全員協議会を開催いたします。

協議事項として、昨年の暮れに議決しました特別委員会を設置しました、継続案件について、今後どのような形で扱っていくかということに関して協議したいと思います。

まず、議会の議員報酬検討委員会からの継続の案件として、町民の皆さんにアンケートをいただいた、その自由記載の意見が多種多様な意見があったということで、今後の議会改革の中で、どのように活動していけるかということをご皆さんで、協議しながら、またそれをどういう会の中で、議会改革の議論をしていくかということを含めて、協議したいと思います。特別委員会は、あれで解散したんで、後は全員協議会もしくは委員会の中でということになるんですけども。どのような形で進めていければ良いと思いますか。お諮りします。

まちづくりの委員会、または情報委員会、それから議会運営委員会と3つの委員会あるんですけども、それぞれ、関連するということもあり、1つの委員会で取り扱うということも大変でないでないかなと思うんで、全員が揃う全員協議会の中で取り扱っていくということで、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは、全員協議会の中で、扱って協議していくというふうにしたいと思います。

それで、ここに記載してあります、町民の皆さんのから貰った自由記載意見の中で、抜粋した形になりますけども、記憶に残るような、議会として前向きな参考になるような意見も多数ありましたんで、抜粋して挙げてみました。これらについて、どういう風に議論していくか、取り扱っていくかということをご皆さんにお諮りしたいと思います。

(吉原議員「沢山ある」)

多種多様にあるんですけども。

吉原議員

まずね、例えば高齢化社会と人口の減少と限界集落になっていくプロセスにて、幌延どうすべきだということ。それに対して、喫緊の課題であるので、実のあるつまり研修、学習やっていくべきだということ書かれてますけど、これは実際にもうやってきたことで、今回、藤井課長の方からですね、農協が店舗やめると。Qマートに移行するまでの2ヵ月間、役場でバス出すと。買い物バス、週2回でやるよと。これはまさに俺達が石川県に行って研修してきたそのものだと思うんですよ。やっぱりこれらをね、常に俺たちが研修したことをこれからもどんどん出して、より良い方向に、交通の便の悪い人、あるいはお年寄り、その弁の悪い所のお年寄りにどう買い物、生活に不自由させないかというようなことを考える時には、こういう研修したことをどんどん言っていかなかったら駄目だと私は思います。それと、観光もそのとおり、観光もやっぱり、ただ単にここに書いてあるように、ブルーポピー、あるいは秘境駅等だけに税金を投入して良いのかと。でなくて、やっぱり、トナカイ観光牧場に来てみて、いやぁ良かったと思ってもらえるようなものを作り上げていかなきゃならんと。それは、前から俺が言ってるように、やっぱり何とかして少しずつでも、作り上げていかなきゃならんと。そういう話、いっぱい本会議ですると、町長は吉原さんの意見はよくわかってますと言うだけで、さっぱりそれが実現化されないと。やはりこれらも、どんどんどんどんいろんな人から、発言して行って、実現してもらおうように、実現できるようにやっぱり進

めていかなきゃならないんでないかと。色々あると思います。俺1人で発言しても駄目だけど、とりあえず、今感じてることはこんなことだなと。その他にも沢山ありますけど、まだ話したいこともあるだろうから、皆さんから意見を聞いて。

植村議長

吉原議員の方から、人口減少に関しての発言と喫緊の課題でないかということで、町民の意見があったということを述べられました。まさにそのとおりということなんですけども、それらに対しても、町も当然、取り組んでは来てるんですけども、議会としても、積極的にやっぱり取り組んでいくべきだという意見が寄せられました。そういったことも含めて、今後、議会として、各委員会の活動の中で、どのような形で取り組んでいくかということになってくるのかなという風に思うんですけども。まずは、町民の今回アンケートを取って、これだけいろんな形で、行政にというか、議会に要望があるということを肌身で痛切に感じたということなんで、やっぱり小まめに住民とそのような話し合いを持てる場所を回数を多くしていくということが、非常に大切でないのかなと。その中で、いろんな形で、交通の問題にしても、生活交通問題にしても、解決方法を探っていくのかなというふうに思うんで、どう町民と関わって、意見交換をしていくかということが1番大事な1つの議会としての活動になるのかなというふうに思います。という意味では、この関係になってくると、情報推進委員会の方が主になってくると思うんですけども、新たな取り組み。去年は、高齢者、老人クラブとの意見交換ということもやりました。今後、どのような形を考えているのか。もし、委員長として、何か考えていることがあれば、お聞かせしていただければなというふうに思うんですけども。いかがでしょうか。

西澤議員

30年度はですね、子育て世代と言いますか、子育て世代と言ってもですね、幅が広くて、それを一色単にすると、世代間のギャップがあるので、なかなか集まっていたとしても、お話をしていただけないというのが実態だと思ってます。それは経験上、年上の人がいるということになるので、なかなか年代が離れると、そこにはなかなか集まっていたけないので、今分けて考えているのは、就学前の世代と就学後小中とで、後は高校以上世代という風に分けられるのかなというふうに考えてまして、30年度はこの小中学校の世代の方と懇談をするというところをまずしたいなというふうな考えではあります。就学前の児童に関しては、各施策が充実してきていることもあって、そこよりも、中間の世代の人達が今後どのように考えているかというところを聞いた方が良いのかなというふうには考えています。それと、今年できなかった問寒別地区、幌延地区の例年やってた懇談会を開催したいので、その団体別と地域別みたいなのところの開催をしたいというふうには、現段階では考えてはいます。

植村議長

確か、そういった若い世代、なかなか町政懇談会もそうなんですけども、やっても、その世代というは、なかなか参加してくれないし、意見もなかなか聞けないということが多かったんですけども、今委員長が言うような形で、もしできるのであれば、活気的な活動になるのかなというふうに思います。確か去年、羽幌議会でやったんでないかなと思うんですけども。結果どういう形でなったんだか全然聞いてないんですけども、確かそういったことがよな記憶しております。是非出来れば、それに併せて、昨年度できなかった幌延地区、問寒別地区の通常の懇談会も、議会との懇談会という形で、意見交換ということも開催したい

というような、委員長の発言がございました。まさにそういうことの積み重ねを是非、きちりやっていければなど。

もう1つ皆さんにこれ併せてお伺いしたいのは、前回、以前にまちづくり委員長、斎賀委員長の方から、各町内会ごとに懇談会をというようなことも、意見を聞きとると、聞き取りの調査という。これとはちょっと意味が違うんですけども、言われて、まだグループホームに関してのことだったと思うんですけども、そういった活動もこまめにやるということになれば、そういった活動も有りなのかなと。確か最近の音威子府村議会もそういった形で、小グループで議会との意見交換をやっていくというような方針を打ち出したような記事も目にしております。そういったことに関して、何か意見があればお聞きしたいと思うんですけども。斎賀委員長どうかな。

斎賀議員

幌延にいたら、町民から言われることは、折角民意で議員報酬4月に上げて、お前等議員、何でなったんだって。やりたいこと全部ぱっぱとやらんと駄目だべやって言われて、民意を無視して、何で次の任期からのよって、いつも言われるんですよ。民意を聞かない議会なんで全然駄目だべやってそういう話になってるし。そして、これ私が思ったのはさ、継続継投案さ、これをやるんだったら、これ個人の皆でできることでしょ、これ。前も議員の報酬のことについても、それぞれ町民から意見があったんだから、それを皆で答えようって言ったら、それは個人的な意見で、皆個々に考え方が違うそうだから、回答しなくて良いって言うんだから、私も同じような考えで、個々の考えでなんとかなるものだと思ってるんですよ。私がここで継続でやるんだったら、議員報酬の中で出てきた、自分達でやったのは、議員の選挙になるようにね、今ずっと同じだから、1人でも多くの人に議会に関心を持って、議員になるように手を挙げてもらおうっていうことで、議員報酬とかそんなの考えきたんだから、その中で自分達でできることは、議員報酬を上げてほしい、上げたら出てみたいなっていう人が、実際にいたわけだから。アンケートの中でね。それは、自分達で今こうやって決めてあげたと。それ以外に決めてあげれないのは、例えば仮に8人の議員定数時に、今度の選挙の時に7人しかいないと。したら、もう7人のままそれで選挙無しですよ。そして、また1名足りないから補助選挙したいって言っても、今度国政選挙と一緒に町議会議員の補助選挙するってことできないしょ。そういうことをね、自分達でできないんだから、それは国に頼もうとか。それから、兼職で禁止だと。そういう人も選挙に出れないんだから、そういう人達もなんとか出れるように、そういうのは、町で意見書なり何かやって、やるのが継続審議だと思ったんでね。それを考えていくじゃないのかなと思ったんです。そうすることによって、1人でも多くの方が議員になるチャンスというか、芽を見てもらおうっていうのが、継続審議じゃなかったのかなと思ったんだよね。1番最初のね、議員定数の議論すべきって、この議論定数の議論はもうしないって、議長も言ったんだから、これはもうしないよねって皆に確認してるから良いわけであって、もし全部やるんだら、と思ってるんですよ。だから、自分達でできることは、もう自分達で議員報酬上げてほしいっていう人がいるんだから、それ上げて、1人でも関心を持ってもらう。後それ以外できないことをいろいろ自分達も言ったし、町民から出た。それを何とか解決する、それが次の向けて、選挙に向けての検討すべき事項だと私は思っていました。

植村議長

実は今、斎賀議員の方から言われた、議会改革と併せて、新しい議員が、新人が出やすい選挙体制をどうやって築いていくかということとは、また2つの議論やっていくのかなと思うんですよね。いろんな取り組みが今、議員が言われたような取り組みもありますし、または、選挙費用の一部をなんとか公費にしてくれというような運動、そういった働きかけもあると思うし、前回から選挙カーの仕立ても、あんな看板仕立てでなくて、もうちょっと身軽な形で、街頭で訴えれば良いんだから、もっと身軽な形で、選挙カーを出しましょうよというような。そういった話し合い、取り組みもあると思うし。そういった話し合いというのは、今、我々が今やろうとしている議会改革と併せて、また別にそういう話し合いも必要なのかなというふうに。選挙のための、出やすくするための取り組みも必要なのかなというふうに思っているんですけども、どうでしょうね。

西澤議員

斎賀議員が言われたことも、継続審議でやっていくという、そういうことを継続審議でやっていくと思ってたというのも、1つだと思いますし、特別委員会の中で出た自由記載の中で、議会に対する、または議員に対する意見があって、貴重な意見を貰ったんだから、これに答えていくというのも、継続していかなきゃならないよねって話が特別委員会の中でも出たと思いますので、その両方をやっていくしかないだろうなと思います。その上で、先程議長が言われたように、全員が集まる全員協議会でやっていこうということで、良いのかなというふうに思っているんで、これ全部を今日見て、今日全部話し合うっていうのは、なかなか難しいことなので、例えば、全員協議会開催前に次はこういうところを話し合いたいという風な前資料みたいな感じで、議会開催の案内等に入れてもらえれば、これについて次話し合うんだなっていうのが、前もってわかるので、そういう風なやり方でやっていったらどうでしょうと思いますけれども。

植村議長

進め方としては、当然そういう進め方になっていくと思います。残り1年の任期中で、これを話し合いをしていくということで、非常に日的に厳しいことになっていきますけれども、積極的に1つでも2つでも実のある議会改革に結び付けていければなというふうに思います。何かその他皆さんの方から、こういうこと先程、吉原議員が発言したようなこういうことを力入れてやってほしいというようなことがありましたら、お聞かせいただきたいと思います。

斎賀議員

議員報酬の検討委員会の中でね、今の議長の求めている意見になるかどうかわからないんですけども、私の話がね。十勝の議会だか、浦幌の議会で、国にもいろいろ要請するんだって話してましたよね。それ見習って、幌延町でも必要とあれば、賛同して意見書の提出したらどうですか。

植村委員

皆さんで話し合って、これは是非国に要望していきたいということで、幌延町議会単独でも要望していきたいということであれば、これは要望事項なんで、やぶさかでないと思います。1番良いのは、下から持ち上げて行って、道として、道議会として、地方町村議会として、国に要請するという形が1番良いのかなと思いますけれども、おそらく、30年度も引き続き、1回花火を上げて、29年度花火上げて終わりということにはならないと思いますんで、おそらく30年度もこれに類似した要望が出てくるんでないかなというふうに思うん

で、注視してそれらに合わせながら、うちの議会の活動をしていきたいなというふうに思ってます。

西澤議員

すいません、今日渡された自由意見の抜粋のところで、何点か事務局に確認したいんですけど。例えば17番のところなんかで言うと、これは可能なんですか。可能かどうかを聞きたいのは、17番と20番。例えばこの20番なんかで言うと、インターネットで公開してるわけだから、これを冊子というか、それをまとめて、生涯学習センターの図書室とか。貸し出しはしないけれども、掲示するっていう、そこで閲覧はできますよというところが、今可能なのか。いろいろ、斎賀さんもよく言うけど、議会事務局に来て、閲覧希望でね、申請書出して、それでどうのこうのってやってるでしょ。インターネットでも公開してるわけだから、そういう意味では、出てる文章をまとめて、図書室に置いて閲覧とかというのは。

鷺見議員

本人の承諾得なきやいけない。出して良いかどうかね。

西澤議員

本人の承諾というか、委員会として出してるやつだから。

鷺見議員

議員のやつはね、公的な発言をしてるわけだから良いと思うんだけど、個人のやつは載せるとすれば、個人の人に載せてば良いかっていう確認を取らなければ。

(西澤議員「アドレスですか。発言ですか」)

発言。個人で何か意見あって、それを載せるということになれば、個人の承諾を。

植村議長

冒頭の1番最初のやつ。議員の意見。

西澤議員

議員個人のってことですか。そうではなくて、会議録の話です。

17番で言うとアドレスなので、例えば僕もアドレス持ってるじゃないですか。それは、個人が承諾すれば、そこに載って良いのかどうなのか。議会のホームページに承諾すれば、今、構成として、個人の名前載ってるじゃないですか。議会構成で確か載ってますよね。そこにアドレスも別にメールアドレスとか何かを書き込むのを個人が承諾すれば、それが可能なのかどうなのかをちょっと確認してほしいのと。

(斎賀議員「やってるところあるもん」)

あります。したらできるな。そこ確認してほしいのと、20番で言うと、会議録は、今インターネットで公開してるので、それをインターネット環境の無い人に配慮が無いっていう話なので、それは問寒別とか幌延の生涯学習センターの図書室に掲示する。貸し出しはしないけれども、掲示するっていうことが可能なのかどうなのかというところを確認して。

早坂議会事務局長

今の質問に対してなんですけれども、17番のアドレスに関しては、おそらくは可能だとは思いますが。確認はしてないので、きちんと確認はしなければなりませんけれども。当然、皆さん方の了解というのは、当然必要になりますけれども。それさえあれば、それを公開することはできると思います。それと20番の方なんですけれども、会議録の公開方法なんですけど、こちらに関してもですね、すぐにできるかというとなかなか難しいかもしれません

が、インターネットに公開するにあたってはですね、規則ですとか、そういったものをきちんと制定しなければならなかったりということもあります。ということになりますので、そういったまず、規則的なところの整備というのが必要になってくる可能性はあります。ただ、個々に関しても、それほど難しいことでもないのかなど。実際にインターネットで公開してるわけですから。それと同じものが生涯学習センターで見れるよというような内容ですので、あとはそれを何年間見せるだとか。そういったところのきちんとした取り決めをしたうえでやれば、それも可能かとは思いますが。これも確認はします。

鷺見議員

インターネットに出るようになったということもあるし、今までも本会議の議事録は、出たんですけど、今回たまたま去年の9月議会のやつがインターネットで出てて、それは石狩の市会議員の人と、それから外国の自然保護協会の人達と、それで日本野鳥の会とさ、来たんだわ。僕のところに電話が。いろいろ伝わって、僕のやつは個人の電話番号も載っているんだから、当然そっちから電話来たんだけど。インターネット見たら、確かに出てるのさね。自然保護のやつで、特に風車の問題取り上げたもんだから、それで出てて、それで昨日も豊富で野鳥の会とエコネットワークに呼ばれて行って来たんだけど。僕らも勉強不足だったんだけどさ、実際にそういう人達っていうのは、かなり当然、外国から、アイルランドとブルガリアの女の人で、自然保護運動なんかやってる人達が野鳥の会の招待で来て、豊富で講演会やった時に呼ばれて行ったんだけど、僕らも全然知らないようなんだけど、そういうインターネットだから、かなり広がりがあるっていうことと、何か自分の質問がすごく恥ずかしくなってさ。程度が低いなと思って。そしたら丁度、全部出てるんだよね。僕のやつだけじゃなくて、9月議会のやつで無量谷隆君のやつも出てるし、町長の行政報告から、教育長のあれも出てるんだ。だけど、それ一括して見てて、それがぼーんと出るもんだから、それで辿って、電話で来て、招待されて行ったんだけど、やっぱりああいう面で見たら、すごいね。やっぱりインターネットの力っていうのは、ものすごく強くて、それで実際に発言したら、自分の何というか、実力というか、知識の無さというのが恥ずかしくなってきたけどさ、だけどやっぱり、ああいうのっていうのは、やっぱり良いよね、すごく。本当に全然スケールが違うっていうのか、たまたま富樫先生が前の教員の先生の。話も行ったんだけど、新聞なんかでね、ちょっと出てたけど、全然僕らが考えたレベルでないだもんね。いろんな国際条約だとか、それから見たら、日本は全然批准してなくてさ、ただ風車反対だとか、そんなんじゃないかと、やっぱり野鳥だとか、そういうもののどうやって守るかっていう世界的な動きの中で発言なんだね、あれね。そういった面から見れば、議員と言えども、ちょっとレベルが低すぎるなって恥ずかしくなったけどさ、やっぱりもう少しそういった面では、インターネットの交流っていうのは、もっと強くやった方が良いのかなという感じはしました。

斎賀議員

今の鷺見さんの意見ですけどね、幌延町のホームページに出てるやつは、誰でも無断でコピーペーストして良いの。無断掲載して良いんですか。今の聞いたら、勝手に無断にコピーしてるんじゃない。

鷺見議員

コピーじゃなくて、あれが出てる。道北の風車って入れて。

齋賀議員

だから、そこに持ってきてるわけでしょ。私達の意見をホームページに載せてるんだけど、ホームページに出てるのは、全部勝手に他のページに持って行くんだったら、無断でしょ。

鷺見議員

俺がやったわけではない。G o o g l e だとか。

齋賀議員

それ無断だぞ、違反だよそれ。幌延のホームページに書いてるあいてあるしょ。

早坂議会事務局長

ホームページにきちんと記載されてますけども、無断転載と言いましょうか、そういったものは、一切禁止しております。見るしかできないんですね。p d f ファイルでぽんと貼りついてるんで、確かにコピーペーストすることはできるんですよね。できるんですが、きちんと注意書きで、それについては、転載しては駄目ですよって。

(鷺見議員「全部出てるけどな」)

全部出してますんで、うちの方が。当然、個人情報ですので、そういったところに配慮しながら、挙げてはいますけども。それも皆さんにちゃんと署名をいただきながら、載せてるような感じですけども。

齋賀議員

そこまでは許してるけども、それを勝手に。

早坂議会事務局長

それを見るのはできるんですけども、それを使って何かをするというのは、本来は駄目です。

鷺見議員

駄目だけど、結果的にそれを防止するようなものは無いんだな。

早坂議会事務局長

注意書きが記載されてるだけしか今の所は対応はしてないと。

齋賀議員

今そのものを、ページをコピーしちゃってるんだよ。文取るんじゃないんだもん、全部が。

鷺見議員

個人がコピーしたんじゃなくて、そのバイヤーというかその会社自体がやっているんだよな。G o o g l e だとか y a h o o ! だとかね。

齋賀議員

勝手にその1行だけ抜くっていうのはできないっていうけど、1行いないんだわ。全部取っちゃえばそれで終わりなんだ。そして、写真で拡大縮小してね。カットして。

植村議長

よろしいでしょうか。今、意見出た中で、話題を絞って議論していくべきでないかと、あまり広範囲に色々な話していくと、話がまとまらなくなるんで、開催をごとに2、3の話題、議題に絞って、そして議論がしていったらどうかという意見が出されました。まさにそのとおりかなというふうにも思いますんで、そのような方向で、次回以降やっていきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

吉原議員

今回、こういう報酬特別委員会が終わってしまった、解散したと。報酬は決まってしまったと。その中にあった、町民の意見をこういう風に出してきたとこれについて、我々どうするかと、これから。ということになったらね、この1年間では、とてもとてもこなせるものは、そう沢山ないと思う。従って、この次の議員、この人達、今いる人達が皆いなくなるなら、これは別だよ。ほとんどの人が残るわけですから。となると、この次の議会を見据えて、どういう風にして議会は、今後活動をしていくかということを見据えていかなかったら駄目だと思う。それは、どういう風にするかと言ったら、例えばですよ。今までは縦社会で皆、国から下まで縦社会できた。しかしもう、縦社会だけでは、通用しないと。こんな2,400人の町で、縦社会がどうのこうの言っただけで通用しない。やっぱり、横の繋がりはしっかり持たないと。これはやっぱり、この地域全体守っていけないんでないかと。したがって、議会で何をすべきかということだったら、議員との交流を頻繁にやっぱりしていかなかったら駄目だと。そして、この地区では何が足りない、俺の方は何が足りないんだと。お前のところは何が足りないよ。おい、協働してやるべやというようなスタイルに持って行かないとこの地区守っていけないと俺は思うんだ。したがって、早急にこの意見を絞っていくのも、1つの方法だけでも、やっぱりこの1年かけて、色々なことを出して、これからどうすべきかというものを出し合って、そこをちゃんと蓄積して、それを1つ1つこれから、この次の出て来た人で、解決してくようぐらい長いスパンで考える必要があるよね、こんなのこちょこちょこちょやってみたって、重箱の角突いてるもんだと思う。従って、もっと自由にどうしたら良いかということを見据えてちゃんと皆に出してもらって、そしてそれをちゃんと蓄積して、話し合いをしていったら良いんでないかなとするにしてもそう思ってる。これからは、横のつながりが大変必要だと思う。特にトナカイ観光牧場で雪まつりやってますよね。幌延だけではできないよ、ね。もうできない時代だった。豊富さんお願いしますと。頼めないかと。協力を頼めないかということで頼む。そのかわり、豊富さん、サロベツ原生花園のお祭りやめたんだってな、幌延手伝うからもう1回やるべやというような話し合いが議員間でできれば、町そのものを動かすこともできるんでないかなと。俺はそう思ってる。だから、そういう交流をしっかりもって、それをやっぱり、先々を見ながら、我々行動していかなきゃならんなど。ここにも研修が足りないとか、いろいろあるよね。近隣の町村と比較して、やるべきことは、大変山積してると。だけでも、山積してると。単独の町では何もできないんだよ。こんな少ない人間だ。だから、これは協力してやっていくべきものはやっていくべきということで、ここで議論して、そして他の町村に投げかけるというようなのも、1つの方法だと私は常々思ってる。そういうことも考えていったらいいかなもんでしょうかと思えます。

植村委員

大きな話題というか、が出されましたけども。当然、そういう機会もあれば、そういうことも必要になってくるというのは当然だと思いますし。

(吉原議員「機会があればじゃなくて、作らなきゃならん」)

1町だけで事業を進めるということになると、非常に無理が来るとことです。ただ、問題は、なかなか1つのテーブルにつくのが非常に難しいというのは、大きな問題。吉原議員、前からのガスパラントのね、話も吉原議員が主張しているとおりに、1番理想はそのとお

りなんですけども、なかなかそれにしたって、各町が1つのテーブルについて、それについて意見をかわすということが、今までもできなかったということがあります。だからって言って、今後できないよということじゃなくて、そういう機会があれば、そういう話をしながら、反応を見ていくという動きも議会として必要なのかなと思いますけれども。大きな他の町の議会も引き込んでとなってくると、かなり大きなことになってくるのかなという風に思いますんで、今後の課題として、残しておきたいというふうに思います。

今、横のつながりということで、吉原議員の方から言われたんですけども、皆さんこれ必要あるかないか皆さんにお聞きしたいんですけども、実は今年度、管内研修が豊富であります。通常今回の場合は、お金も予算もあまりないんで、予算安くしたいというようなこともあったんで、おそらく道の議会事務局長村川局長を呼んで、講師として、最近の各議会の動きあたりを講演してきてもらえるのかなと思ったら、そうじゃなくて、豊富の方で、是非別なことやりたいという議長の発言があったんで、それできなくなったんですけども。うちの議会として、以前平成16年か17年のあたり、藤井議長時代に局長呼んで、ここで講師、講演してもらったことありますよね。ああいう形で、視察に行くのも結構なんですけれども、その前にそういった各道内での議会としての動きをもし、講演してもらえらるんあれば、良いのかなと思ったりしているんですけども。皆さんどうですか。いろんな形で今、議会改革という形で、各自町村際立った動き。

(鷺見議員「講演会やるってかい」)

うん。講演会。私はおそらく講演者の許諾を得ないとできないと思うんですけども、プラス議会議員だけでなく、興味のある一般市民も一緒になって、その話を聞ければ、理解にも繋がっていくんでないのかなというふうに自分としては考えるんで、もし講演者が良いですよってことになれば、一般の人も入っての講演会をできればなというふうに思っているんですけども、いかがでしょうかね。

(吉原議員「幌延だけか」)

幌延だけで。

(吉原議員「それは良いんじゃないの」)

おそらく、全道の議会事務局長ですから、全道の各自治体の議会のいろんな目新しい動きを掴んでると思うんで、そういったことも混ぜて、今後のこういった自治体の議会の活動っていうのは、どうあるべきかということの講演をお願いできればなという風に思っていたんですけども、いかがでしょうか。必要ないよというんであれば良いんですけども。

吉原議員

これは、話聞くのは別にやぶさかではないと思う。ただ、こうやって今までのずっと見たら、やっぱりここに話し合われたことを実際実現したのって、意外と身近なものなんだよな。例えば、今回だって問寒別の買い物バス。それを実際去年見て来たわけですから。これは実際もう、ここで必要となってきたと。これだって一旦やり始めたこと、やめるって言ったら、またおいおいっていうことになると思う。従ってここで、身近なことを皆で出し合って、それをやっぱり実現する。そういう遠いものだということじゃなくて、できるものからやっぱりやっていかなかったら駄目なんだ。だからね、なんも議長な、隣の町の議長と話し合って、おい、たまには議員の交流会やるべやという話して、良いべって言うんだったら、すぐ集めてやると。身近なことだからやっぱりやっていかないと。何でもかんでも遠ざけていた

んなら、できないからね。その辺を議長の行動、それをやっぱり十分に発揮していってもらわなきゃならん。

植村議長

できるかできないかは、力不足でなかなかできないような気がするんですけども。実は、昨年度からやってます、5町衛生議長会議という、皆さん記憶に少し残っていると思うんですけども。これが2月28日遠別の旭温泉で開催されることになってます。今、吉原議員が言ったまさにそういった話も含めた、共通の話題を探る場所かなというふうに思ってますんで、何かこう重要な気になる良い話があれば、即皆さんにこういった全員協議会の中でも報告して、やっていきたいというふうに思っております。

無量谷議員

今、議会の事務局長呼んで講師するって、全道のね。そういう場合ね、僕らの酪総研の形の中ではね、ある程度一般向けの講演と実質、直接該当する部分とで、2分割で講演いただくというような形を取ってんだけど。だから、一般的には大人数で。そして2部では、担当の議員さん、あるいは議員事務局関係ばかりで、本当の懇談会と講演というような形でやれば、ものすごく親密に話せるよという形を取って、意外とそういう講演会の講師の詳しい内容をね、聞けるというような形で聞いているんですけども、そういうような形取れば、意外と漠然とね、町民向けのやつを講演するとなると、直接あまりなかなか議員さんにはプラスにならないのかなという感じはするんですよ。ですから、2部制でできれば、時間が取れば、そうやってやった方が、すごくその人の考え方ややっぱり合う所と合わない所と議員直接のね、話っている部分では、かなり違うのかなという感じ。

植村議長

わかりました。ただ、講演者の都合を聞かないでの話で、私の話なんで。当然メインは、私達が勉強するという事と、お願いするということなんですけども、折角の機会なんですということ、講演する人が良いですよってということであれば、一般の人も入ってもらってということになります。ただ今、無量谷議員が言うようなことも非常に良いことかもしれせんけども、幌延に来ての所要時間ということも考えて、講演者との都合も考えながら、日程を組んで、もし来てもらうとなったら、組まなきゃならないということもありますんで、参考にしながら、その辺を進めていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

斎賀議員

これから1年かけて話合ったんですけどね、そういう風に議会どうするとか、改革どうするかっていうのはね、本年大事かもしれないけれど、来年になったら、今度新しく議員になりたいっていう人も出てくるわけだから、その人達のね、今の議会の人、幌延町民の意見を聞かないは、町のこういう言葉っていうのに、全然議員は耳傾けないとかがっていろんな、私達がそう思って出て来たと同じように、また新しい人達出てくると思うんですよ。そして、その人達が出やすくしてあげるのも、出やすくしてやる言葉がどうかはわからないですけども、その言葉が適切かはどうかかわからないけども、出やすくしてやるのも、また私達の役目だと思うんです。誰か前に言ったんですけど、豊富はね、選挙の時全然しないんですよ。受付だけなんです。お金かかるから。

(無量谷議員「そうじゃないよ」)

そんなことないの。車出すの。

(無量谷議員「それは初山別」)

どこでも良いけど、そういうところもあるんだったら、したら幌延も受け付けただけだ。そして、選挙運動のあれがあるんだけれども、だけどやっぱりそういうふうに出してくれる、出るっていうやつがいるんだたらね、その人達にも出やすく、自分達の仕事も考えないといけないけども、その人が新しく出るっていう人達のことも考えて、早く。話せるそういう場というか、ここで話して良いものなのかどうなのかもわかんないけどもね、そういう話をするように、機会があるんだたら、そういうふうによれば良いんじゃないかなと思います。

高橋副議長

斎賀さんが言うとおりに、まだ1年しかないんで、議員報酬上げるっていうのは決まったんで、あとは今みたくやっぱり、出やすい環境を早く作ってやって、来年の5月だからって、5月まではかけて話す問題じゃないから、早くたって今年中に話を終えないと駄目なので、そっちの方も早急に進めていかないと、他の問題も沢山あると思うんだけど、そっちの方決めた方が俺は良いんじゃないかなと。それを先行させて、他の問題もやっていくという方法が良いのかなと思うんです。

植村議長

わかりました。そうしたら、そういうような形で、選挙に関する改革、独自改革というか、選挙法というのあるんで、あまり勝手なこともできないと思うんですけども。申し合わせ事項でできることがあるのかなのかという、そしてもし、要請していかなきゃならないことがあるんであれば、どのようなことなんだということも、きちんと炙り出してやっていきたいという風に思いますんで、どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

次の話題に入ってよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

先だって1月の20の日に宗谷管内の議長総会がありまして、本年度の日程がまず、この日程で間違いのないと思います。決まってきましたんで、いろんな都合があると思いますんで、事前に皆さんにお知らせいたします。うちらの方で関係してくるのが7月3日の議員研修会。それから8月の22日の議会広報研修会、皆さんに関係あるところは、そこら辺ですね。

(「監査は」の声あり)

監査も入ってますね、という日程になってますんで、目を通して記憶しておいてください。

1番肝心なところで、さっき豊富でありますって話して、管内の議員研修開催5月の15日火曜日。場所は豊富町民センター。この日の講師は、まだ未定だということで、5月の15日ということで、決まっていますんで、よろしくお願いいたします。

その次は、3月の行事予定。主なものざっとあげてますんで、目を通してください。一般質問の締め切りは6日ということになってます。そして、1日が各委員会ということになってますんで、今日の話ですと、まちづくり委員会の案件がかなり多くあるということなんで、よろしくお願いいたします。

それでは、次の資料に映りたいと思います。現在、町の方でまちづくり委員会というものを設置して、委員を選任して、一ノ関さんが委員長となって、昨年からずっと引き続き勉強をしながら、協議しています。私もオブザーバーとして、出席させてもらっております。また、議会の中からも、観光協会または商工会の関係で西澤議員、それから高橋議員が委員として、出席をしているんですけども。今現在まで進んでいる状況というのは、こういう形に

なってます。観光を中心とした町づくりを目指すためには、どういうことが必要だということ、拠点となる、拠点づくりをしていこうという段階で、当初の頃は、はっきり町長は、道の駅ということは言ってませんでしたけども、防災の拠点だとかという形、それを併せたような何か拠点を作りたいということを書いてましたけども、今現在は、やはり道の駅というものを想定した話し合いになっております。まだ、ここだっていう、こういう形になるという結論は出てませんが、今現在、進行形で協議をしてるところです。いろんな形で、各道の駅を手掛けたアドバイザーっていうんですか、そういったその人達を呼んで、いろんな勉強会をしてますけども、やはり、いかに人を呼び込むか、いかに他とないものを目玉にして売れるかという差別化ということが、やはりこれだけあちこちに道の駅ができた時に、1つのキーワードとなりますよというものが、最終的には語っております。ただ、うちの町の場合は、ただの道の駅じゃなくて、防災の拠点も兼ねるということも1つの目的の中に入っているということもあって、若干内容が変わるのかなというふうに思うんですけども、まさに今、委員会の中で、協議を議論をしているというのが実態です。町としても、こうしていくというような結論というのは、おそらくまだ持っていないと思うんですけども。こういう目を通して、ずっと読んでいただきたいと思いますけども。議会として、一応皆さんにこういうところまで進みますよということをご理解していただきたいと思います。わからないところは、私に聞くよりも、担当課の方にお聞き願えれば、より詳しくご説明していただけるんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いたします。

齋賀議員

4ページにね、4ページの宿泊関係ありますよね。ゲートウェイという言葉の使い方について意見を申したが、聞きいられずそのまま活用された。その理由については、説明がほしかったってこの疑問点は、今も解消されないで会議進めているんですか。

植村議長

この話し合いの時に関所という言葉、ゲートウェイという、日本語に訳すと関所になるんですけども、関所という言葉は、ちょっときついんでないかということで、料飲店の人から、何とか別な言葉使えないかということが出されましたけども、内部でいろいろ協議して、そういうきつい意味でなくて、ちょっと寄ってもらおうという、意味合いも兼ねたインパクトのある言葉を使ったということなんで、なんとか了解願いたいという、意見としては聞いたんですけども、それによって、それが変わったという経緯にはなってません。本人にすれば、なかなか納得できなかったのか、だけど最近では納得してるのかなというふうに思うんですけどもね。そのものを積極的に関わって、いろんな改善というか、積極的な意見出してますんで、私は本人としては、まあ良いでしょうということで、納得したのかなと思っています。

齋賀議員

納得しないで話すんなら、最初からそんな委員会おかしいなって思ったの。

それとね、防災の拠点ってどういう意味なんですか。防災の対策本部でも作るの。それがよくわからない。道の駅が防災の拠点だって。さっき。

(吉原議員 「最終的には避難場所だって」)

避難場所になるのか、それとも対策本部でもそこに作る。それで防災の拠点って言っているんですか。

植村議長

だから、そこがね、私もよく理解してないんですけども、非常に難しいところで、要するに津波だとかね、大雨だとかっていう時の避難場所という風な防災の拠点なのか、ただ単に吹雪いてね、道路走れないと。そういう時の防災の拠点ということを考えているのか。それによつての作る場所が大きく変わってくるんでないかなというふうに。それはまだ結論ででないんで。西澤議員どうですか。

西澤議員

これは、私も何回か出ているんですけども。議長はオブザーバーで、私は観光協会の立場で出てます。あれなんですけども。そもそも集まっている人が、基本的には話の進め方としては、反対ではなく、どうしたいか、どうやりたいか、どういう可能性があるかということとを議論している場だと思っています。いてもそうです、反対の意見も1つも出ないです。この資料見てもわかるとおり、いくらかかるとかもはっきり出てこないですし、まだちょっとこれに懐疑的な部分があつて、どうなんだろうと思つてますけど。この場で押さえたいのが、これは進めていくんですか。それとも決定事項じゃないですよ。その辺どういう、あの会議の中では、どうしたいか、どうやりたいか、夢を語ってください、何ができますか、どうしますかという話の流れで進んでいっているわけですよ。なので、基本的にそこよりこっちだよ、こうの方が良いんじゃない、ああの方が良いんじゃないのかっていう議論はあつても、そもそも反対というような話ではないんです。反対な人がいても、別に反対を出せるような雰囲気でもないです。なので、このままいくと、その委員会が出たものを、例えば町長に答申した時に、そのまま答申されるわけですよ。委員会でこういう話で決まりましたよってという話で、前みたいに僕か斎賀議員かな、何か言った時に、この場で話した時に何かで答申もらったものを重要視したいとか、この意見も大事にしたいということで、例えば議会で反対したとか、反対意見言ったとしても、もう町長の中では、その答申で、その委員会をバックに意見を固めてるので、っていう話になってくるじゃないですか。議長はどう考えているんですか。あの場において、これは、いつか議会に対して説明があつて、反対されるとか、反対していくとか、そこで喧々諤々やっっていけるような状況になると思つてますか。どうですか。

植村議長

このスタイルっていうのは、非常に諮問委員会っていうのも、当然そのとおりなんです。非常に今時の政治手法かなというふうに見てます。というのは、町長のやれないことを積極的な議論をしてもらつて、ある程度先導しながら、1つの物に作りあげていくという手法なのかなというふうに思つてます。その中で、ちょっとこちらで議論して、委員会とかでかけても、今委員会でやつてる最中なんで、私の口からという話にすぐ切るんですけども。いずれきちんと答申された時には、当然議会にこのような形で、答申されましたと。従つて、町としてもこういう形で、この計画を実行していきなれないと思つてということが出されてくるんだと思つてます。その経緯の中で、議会としての意見はきちんとその場で述べなければならぬのかなというふうに思つてます。そのためにやっぱり、私もその経緯を知るために、オブザーバーとして、招集されているのかなというふうに見てますんで、一応今まで、こういう報告してなかったんですけども、現在ここまで話が進んできていますと。ただ、どれ1つとしてまだ、きちんとした決定事項というのがなくて、手探りの状態でここまで来てますと

いうことだけは、皆さんに伝えておきたいと思います。おそらく今年度中には、ある程度の形ができてくるのかなと思いますので、その都度また、何か新しい動きがあれば、議会にこういう場所で報告していきたいというふうに思っています。

高橋副議長

これは、町長のやりたいことを喋っているわけじゃないと俺は思うだよね。要するに幌延ひと・まち・しごと創生会議の中で、何を基本にして、取り組んでいくかということになった時に幌延町の地域振興、観光計画っていうやつでいきましょうっていうことになって、道の駅、川の駅、防災の施設も良いけど、これは町長の提案じゃなくて、そこにいた人方が、そこに人を留めるためには、何をすれば良いのって。したら、道の駅作った方が良いんでないのと。それから出て来て、道の駅を。場所は決まってないけど、作った方が良くないかって。そして、それを要するに、町の中に人をどう呼び込むかとか、そういういろんなことを話し合っ、要するに幌延の中に人を呼び込む、要するにどうしたら呼び込めるか。特産品を作るとか、町に入ってこないとこれは食べれないとか。だから、要するに組みっ、観光に対して、どうもっていけば人が来たり、寄ってくれるかって、そういう取り組みを考えているものだと思うんだよね、これね、まず。そこからだんだんだんだん発展してって、本当に道の駅作ったり何かっていう話に入っていくんでないかなと。俺は、そういうつもりで会議には出てるんだけど、間違ってたらごめんなさい。

斎賀議員

町長もう、作るつもりで考えてるんでしょ。作るつもりで考えてるんだべさ。じゃないと話にならんもん。それにさっきさ、町長の意見じゃないって、町長、道の駅構想っていうの、町長出馬した時にパンフレットに書いてあったんだもん。それと、今の検討委員の意見が一致して、今話が進んでるんだ。

高橋副議長

だけど、この道の駅っていうのは、町長のそれ知ってる、知らないは関係ないかもしれないけど、道の駅を作るのが1番人を留めれるんでないかっていうのは、その会議の中で出て来たんだよね。そしたら、良いですよってということで、皆がそれを1回削らされたことあるですよ、俺が知らない時に。その道の駅って。その時に俺だから文句言ったんですよ。8割の人が道の駅作るって、良い意見だよって賛成してるのに、何で勝手に次行ったら削られてるのって。それで復活、またしたんだよね。この道の駅っていうか、川の駅っていうか。

斎賀議員

何かの会議でそれあったんだよ。

西澤議員

今の構想は、高橋議員から説明あったような感じなんですよね。ただ、幌延の観光コンテンツってそんなに無いですし、例えば特産品だって無いじゃないですか。今の話の進め方だと、まず作ると。そこから今度コンテンツをね、充実させていくっていう話にね、そこまでだから計画にやって、じゃあ先程吉原議員の言ったように、トナカイあれじゃ駄目だと、もうちょっとなんとかかなしなさいっていう話とかがあってとかね、いうなら良いけど、拠点作りました、コンテンツ充実できませんでした。はいどうしようって。だから、この管内で唯一温泉無いじゃないですか。これ僕、良かったことだと思っているんですよ。自治体と

して負の遺産を持たなくて良かったなと思うけど、道の駅だって、結局天塩も人入っているようだけど、全然駄目だっていう話です。美深も実は入っているんだけど、運営としては赤字になってるって話をちょっと聞きまして、そうするとあれだけ人が入っても、そんなにペイできないような所を幌延町で道の駅作って、本当にペイできるのかどうかっていったら、そこはペイの問題じゃないんだと。大事なんだという風にね、防災の拠点でも大事なんだって言われたらね、またあれだけ。そんなにそんなにどうするんだろうと思う。これからだって、いろいろお金かかるのにね、本当にそこにお金かけてやりますかっていう話をね、いつどこでどう誰がどうしますか。

鷺見議員

お金の規模だとか何も出てないんでしょ。だから普通であればさ、そういう金銭的なものを含めて議論するのが、本当は1番良いんだろうし。

西澤議員

議論的には、さっきも言ったように、やりたいこと、皆さん何やりたいですか、どうしたいですかって。拠点作るのはどうですかっていうことを集めてるから。

鷺見議員

だから、何千、何百万とか、何千とか言うんじゃないで、大体これぐらいの構想で考えてますっていうのが、本当だと思うけどね。

高橋副議長

今そこまでいく話じゃない。

吉原議員

いろんな人の意見集めて、そして乗せて、実際に予算化した時にできるの。ペイするのって話になってくるのであるんから、まずアイデアを出さなかったら何も進まない。

無量谷議員

これは、幌延地域の観光の考えたり、幌延を知るためにね、外部にアピールするためには、すごく良いことでないかなということなんですけど。やり方によっては、いろいろ今後の考え方で変わってくると思うんですよ。そして、また45度ゲートウェイっていうような感じだけど、45度っていうのは、やっぱり地球の幌延と中頓別しかない地域をね、これをいかに日本全国にPRするかっていったら、まだまだ遅い部分で。

(西澤議員「そこで観光客くるんですか」)

ですから、まあまあ聞いて。45度ね、いかにPRするかということを考えたら、ある程度こういうことも必要でないかなと。

西澤議員

45度、どうやってPRしたら人が来るんですか。

無量谷議員

私は、具体的に個人的に今言いますけれども、45度の境目をね、上行くと今の漫画的、映画というか、そういう物を作ってね、北行くと寂しい。南行くと恋が結ばれるようなね。俺はそういうような感じのね、漫画的な施策も作っても良いんでないのかなっていう、俺は思うんですよ。そういう中で、今の時代に合ったね、コンピューターのサイトというか、インスタ映え、そういうようなもので発信してほしいなという感じでしてます。ですから、昨日から今日にかけて明日にかけて、今スノーサイトがやってるんですけど、そういう中で、

どっから来たのって昨日から聞いてますけども、遠くは岡山だとか、そういう所からも来ます。ですから、日本全国からやはりこの2日間、3日間の滞在期間を幌延に長い期間をね、居座ってもらうという、そういう中で、やはり特産品が無いのかって、昨日あたりも晩に何食べたらよいか、なんて言っていました。だけど、何を進めてよいかちょっと疑問に思っただけです、そこは何とか個人の好みですから、ということで、ラーメンとかそういうようないろいろ店屋さん、飲み屋さんもあります、ということをお知らせしました。そういう中で、幌延で絶対これは特産品という形のね、言い方が町民にまだわかってないと。町民が我が特産品だっていうね、物をこれから幌延町民全体で考えて作っていかなくちゃならないんでないかなって感じはするんですね。その辺やはり、そういうところからやってくないと、町民1人1人が自信を持って勧めるだけのことをしないと、これ観光にね、呼び寄せるきっかけにはならないと思います。

高橋議員

いや、これは良いんだ。これ取り組みだから。

無量谷議員

だから、どういう部分では、かなりそういう中に地道でありながら、進めていかなくちゃならないことかなりあると思う。ですから、このゲートウェイだとか何とかっていうのも、やはり幌延特産品だって言うような感じで、俺は進めてほしいなっていう感じはするんですね。北緯45度。

植村議長

無量谷議員の積極的なこういった意見もありますんで、今後とも委員会に出席したあかつきには、また皆さんに報告しながら、注視していきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひいたします。これはこの件で。もっと詳しく知りたい方は、担当課に行ってお聞きください。よろしくお願ひします。

もう1つ。最後の話題ですけども、JRの関係でもう1枚資料がありますんで、よろしくお願ひいたします。特に皆さんも新聞等で、大体ご存知だと思うんですけども、特に17ページからの部分で、推進協議会が了解してうち出した経費節減対策という部分でございます。

現在、JR北海道が宗谷線運行するに関しては、48億7,600万からの赤字が1年間に出るんだという話でございます。特に名寄稚内間がやっぱり大きな赤字が生じてるということで、それに関して、この17ページからの取り組みで、経費節減するためには、駅の見直し、廃止、踏切の廃止、行き違い設備の撤去、ダイヤの見直し、間引きするのですか、それらによって、自ら努力をしていっても、1億2,500万程度の約600万程度の経費節減程度にしかならないよということを表明しております。したならば、後は何といたっても、北海道として、道が指導力を持って、国に要請してほしいということで、前回の推進会議の方は終了しております。新聞等でも皆さん目にしてると思いますけれども、こういった中身に関しては、詳しくこういった形になってますんで、後でゆっくりと目を通していただきたいという風に思います。

無量谷議員

今ね、議長が言われたようにね、踏切廃止となれば、うちの生活圏に問題が出てくるから。だから、踏切廃止となれば、JR廃止だなと。そっちに回りたいなという気もするんですけども。

(「それだけで」の声あり)

そうだよ。生活かかっているもん。そういう面と宗谷沿線には、天塩川という形の眺めの良い癒されるね、時間的空間があるんで、もし議長が喋れる機会があれば、宗谷線の沿線のね、木を少し見やすいように、川を見やすいようにもう少しあれば、すごくまた更にね、切ってあれば、川を見て、JRで癒される時間が過ごされるでないかと私は思います。だから、JRと川と接してるのは、北海道でもここしかないんでないかっていうぐらい距離あると思います。幌延から音威子府までの間。それをね、観光に持ってたらどうでしょうかという感じは言いたいんですけど。

植村議長

まさに存続してくれという意見の中に観光という部分も重要な位置を占めていますんで、そういうことも今後の取り組みの中で、話しが出てくるのかなというふうに思っております。如何せん、従来のこのJRの役目、生活交通という公共交通という部分からいくと、限定されてきているのかなというふうに私は出席しててそう感じます。というのは、普通列車は、どんどん間引きされていくとなると、我が町幌延の生活交通の体系もそれなりにやっぱり考えていかなければならないのかなという、JRを利用したどうのこうのということが、当然難しくなってくるというふうに。今すぐじゃなくても、将来的にそういうことが予測されるということも踏まえた中で、やっぱり生活交通の協議もしていかなきゃならないのかなと思いますんで、今回問寒別店舗閉鎖ということに関して、臨時バスを出すということでしたけれども、臨時バスでなくて、定期便をきちんと足として確保していく。バスでなくても何かの方法でやっていくということも、先程冒頭に吉原議員が言われた人口減の町の対策としては、大きな問題になりますんで、議会としても、早急にやっぱりこれはやってかなければならない作業の1つかなというふうに思いますんで、そこら辺も踏まえてよろしく願います。JRに関しては、まだまだおそらく今年度かなり具体的な各自治体の負担までの話も出てくるんだろうと思いますんで、分かる範囲で皆さんに報告していきたいと思いますんで、どうかよろしく願います。以上でございます。

吉原議員

JRに関してはね、俺等は新聞しか、あまり知る機会がないんだけど、国としては、表向きにはね、サハリンとの将来的な長い目を見た時に、サハリンと稚内の間47kmのところに海底トンネル掘ると。そして、シベリア鉄道繋ぐという、そういう壮大な計画もありそうだと。したがって、北海道だけで愚痴愚痴言ってたって、どうもならんから、やっぱりこれは、国にどうすんだということをきちんと伝えていかなきゃならんと。それともう1つ。我々が何ぼ愚痴愚痴言ったって、これ人口減ったんならどうしようもない。やっぱりJRだって会社だから、採算が合わなければ、どんどん縮小せざるを得ないわけじゃないですから。だから、それも交渉の対象にするのは、非常に良いことだけでも、それと別な方法でアピールしてかなきゃならんのではないかと。

植村議長

ただ現状の問題として、貨物便が走らなくなった線路なんですよ、もうね。老朽化しちゃってね。そういうことになってくると、その目的がはたして果たせるのかなということもありますんで、やはり今、吉原議員が言うような国として、維持するためにはどうしていくんだということをきちんとやっぱり。恐らく今後、そこら辺も含めて出してくれるでないの

かなというふうに思いますんで、その前におそらく各自治体が何を負担する、どこまで負担するんだというその話で、大きく分かれてくるんでないのかなと思います。なかなかそこを今まで出したら、もう話が空中分解しちゃうんで、出せなかったというのが実態でないかなと思いますんで。

吉原議員

ただね、お金を出すのも良い。良いけども、本当に自治体で出して、いったいいつまで出せるのか。そして、どのぐらい出せるのか。それを出したことによって、JRが本当に存続できるの、あるいは復活できるのかという問題が大きくかかってくると思いますよ。いつまでもいつまでも自治体でそんなに出してられないですからね。やっぱり、自主努力でJRで採算が合うような方法をしてかなきゃならん。でも、それは實際上無理でないかと。

植村議長

ただ、2分割方式ということになれば、これはどっちかの部分を負担した自治体なり何なりは、存続する限りは出し続けるというのが間違いないことだと思いますよ。

吉原議員

でもね、2分割も良いんだ。JRは上持つと言ってるんでしょ。下の方は充分。下の方は自治体でやって下さい。ところがね、線路の維持管理だけででは大変なことだと思うよ、やっぱり。今見てご覧。線路こんなになって走ってるよ。杭こうやって抜けてるよ。そんなのね、直してね、実際合うかい。合わない俺は思う。だから、何か良い方法考えたら、やっぱりもう、道で考える時点ではないと。そして、やっぱり九州は合ってるぞってこういうけど、人口が違うからね、確かに。九州あたりは人口多いからね、それなりに利用してるわけで。

(「でも赤字だよ」の声あり)

高橋議員

関連で黒字になってるだけだから。

吉原議員

色んなことやってるしょ。

植村議長

そういう状態になってますということで、今後まさにまたこれも議会としては、注目していきなというふうに思いますんで、今度の推進委員会等々ありましたら、また結果を見て、皆さんに報告したいと思います。

以上の協議会の私の方からの案件ですけども、その他として皆さん方から何かあればお聞きします。

斎賀議員

今の鉄道のことでもそうなんですけどね、全然来年度の予算も始まるっていうのにな、町から以前のように全然説明が無いですよ。この3つの駅を維持するのは1年限りだって町長、そうやって言って、私達に説明したんですよ。その後、まったく説明を何も無いでしないといけないし、この前のゆきんこ祭りだって、補助事業でやったんでしょ。町のね、今までは丁寧にな、こういう補助事業申請があったから、皆さんどうですかってお伺いも聞いてくれたんだけど、今回は何もないんですよ。今専決処分であるのかなと思ったら、それも無いし、これ議長の方に何か相談されているんですか。

植村議長

すいません、同じレベルだと思います。申し訳ないです。

西澤議員

あれイベントの補助だから、要綱もちゃんと条例もあるから、そこ審査通ってれば、別に議会の方に説明いらぬ。

斎賀議員

それもあるけれども、汽車の方だってさ。

富樫議員

汽車の方、実際にでも負担はしてないんでないの。

斎賀議員

実際はしてないよ。歌内がしてないから。

植村議長

今言われたとおり、中川が断ったということで、JRとしては、全関係の自治体が足並み揃わないと駄目ですよということなんで、町としては執行してないという。実際はJRが持っているということになってます。

斎賀議員

それをね、だから今度どんなになっても全部駅については、先月の広報でき、町が全部やっていくって言ってますよね。町でやっていくって言ったら、議会に相談なしに勝手に議会の広報にそうやって載っけて良いものかなと私は思ったんですよね。だからそれで、議長に何か相談あったんですかって聞いている。

植村議長

いやいや、議長の前に委員長と相談しなかったら。同じレベルですね。すいません、私もなかなかそういうところまで気づいて、町長のところに聞きに行っていないで。

斎賀議員

後もう1点はね、去年から言ってたんですけど、秋に原子力のね、深地層の研究発表ありますよね、東京であるやつ。それまちづくり常任委員会で行かさせてもらえないかってやつは、それはどうなったんですか。予算反映されたんですか。

植村議長

それに関しては、予算には反映されていません。従来通りの予算になって、委員会としての予算としては、反映されていません。

斎賀議員

町長にお願いしに行ったんですか。

植村議長

お願いしに行ったけども、委員会で行くなら、別な形で視察してほしいなという町長の意向でした。

斎賀議員

そしたら、そのすぐ言ってる考えなかったの。別な形で行くっていうのは、行ってほしいなって言うんだったら。

植村議長

勉強会に行きたいということだったものですから。

齋賀議員

だから、勉強会に行きたいって言って、議長にお願いしたんだけど、町長にそうやって言われたんですね。それを何で早く報告してくれなかったんですか。我々だって産業厚生常任委員会の時に行くって言って、良いよって、まちづくり常任委員会に行って勉強しに行くって言ったら駄目って、それおかしいしょ。

富樫議員

いろいろあるんでないのかい。俺は知らんけど。新聞で報じられたこともあったから、あれなんでないの。

齋賀議員

それとも議長、俺に言ったように、その提案飲み込まないから、議員そんなに行かせなくて良いって言ったのかなって思ってさ。

(植村議長「提案」)

うん。まちづくり常任委員会でそこまで行くんだったら、そうやって委員会でもこうやってもらわないと困るなって言ったしょ、議長。それは関係ないんですか。

植村議長

いや、どういうことだ。ぴんとこないな。

齋賀議員

ぴんとこないですか。いや、まちづくり常任委員会行くんであったら、研究の継続の決議、委員会でもらわんと駄目だって、俺に言ったしょ。それが関係あるんですかって。

植村議長

幌延の研究の。それとは関係ないと思いますよ。それは、今幌延の状況として、鷲見君言っているとおり、20年程度という部分が近づいてきているという中で、しっかり研究してほしいなという、町民の多くの声を私も実際に耳にしますんで、議会としては、その選択もきちんとしながら、やっていかなければならないなという話で、齋賀議員にも俺、話したと思いますよ。それと勉強会行く行かないとはまた別な話です。

齋賀議員

そうなんですか。そうやって条件突きつけられたから。

植村議長

そんな条件はつけてません。

齋賀議員

そうか。したらそんな余計なこと俺に言わなくてよい。委員会に決議してもらないと困るって俺に言ったんだよ、委員長。俺に、だからさ。それがあのかたと俺は思うしょ。それ以外の理由もないも聞かないし、今そうやって言われたら。わかりました。

吉原議員

ただね、やっぱり我々調査権あるからね。そして、政務調査費も何も出てないんだから、町長にはある程度呑むところは呑んでもらわんかったら。ただ単に別な方法ある、別な方法あるって逃げられたら駄目だよ。やっぱり調査権は、きちんと調査するべきものは調査するというので、俺はそれだけの知識してなかったら、町にも何も言えないしょ。その辺、議長しっかりして、やっぱり町長に喰い付いてでもお願いして。理屈に負けないで、だらだら

な理屈に負けないで、だらだらな理屈に負けたら駄目だよ。きちんと主張するところは主張すると。今回の何回も言うけど、バイオのやつだって、きちんと調査権を発動して、我々調査させてください、今年。そうすれば、皆さんがどういう方法が良いのかっていうことを皆わかってくれる。あそこで話聞いただけではわからん。

植村議長

当然、必要ということであれば、まちづくり常任委員会自身にきちんと結論を出して、調査する事項を調査するというので、何も町長も反対できないと思いますんで、しっかりと議論して、その調査をしてやっていくと。そして、町に進言してくということが、やっぱり大事な議会の仕事なんで、そこは私は否定しませんので、どうかよろしく願いいたします。

以上、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

大分時間も経過しましたが、以上をもって全員協議会を終了いたします。どうもご苦勞様でした。

(16時40分 閉 会)

以上、相違ないことを証するため署名する。

議 長 植 村 敦

主 事 満 保 希 来